

狭心症の治療

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



狭心症の治療としては薬物療法、冠動脈ステント治療、冠動脈バイパス手術があります。まずは薬物療法が基本となります。薬を服用することにより、冠動脈を拡張させたり、心臓の負荷を軽減することで、狭心症発作を起こしにくくします。また血液を固める血小板の働きを抑えることで血管が詰まって心筋梗塞を起こすのを予防します。さらには狭心症の原因となる動脈硬化の進行を防ぐために高血圧、糖尿病、脂質異常症を薬でコントロールすることも必要です。しかし薬では進行してしまった動脈硬化や冠動脈の狭窄を改善することはできませんので、冠動脈の重要な部位に高度の狭窄がある場合には薬物療法だけでは不十分となります。

狭くなった冠動脈を広げる治療として、冠動脈ステント治療があります。カテーテルという細い管を冠動脈に挿入して、冠動脈の狭窄部を拡張します。当初は固い風船で広げていましたが、閉塞や再発の危険性が高いという欠点がありました。その後ステントという筒状の金網を狭窄に留置するようになり、さらに近年は再発防止の薬を塗ったステントが用いられるようになり、治療成績が向上しています。ステントは血管の中に留置したままとなりますが、最近時間が経つと溶けて吸収されるステントも開発されています。

また冠動脈の根本に狭窄があったり、狭窄・閉塞部位が多数のため冠動脈ステント治療が困難な場合は冠動脈バイパス手術を行うこともあります。これは全身麻酔下で胸を開いて、狭窄・閉塞部位の先に新たな血液の通り道（バイパス血管）をつなげる手術です。体の負担はありますが、一度で確実に治療できる利点があります。

狭心症の治療については、重症度や年齢、全身状態等を総合的に判断して、考えられる治療の選択肢をご本人・ご家族に説明し、最適な治療を選択していきます。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000